

## 放射線(診療)業務従事者の教育訓練を受けて

川崎市立多摩病院 画像診断部 篠原 ひとみ

講習会第一日目として行われたこの日の演題は、主に放射線治療や核医学、患者様に対する接遇などでした。どの演題も大変興味深い話ばかりで、今話題になっている福島第一原子力発電所に関する事なども織り交ぜられていました。

その中でも私が特に関心を持ったのは、最先端の放射線治療と接遇に関する話です。

放射線治療の中でも、近年では HIMAC などの重粒子線や陽子線治療が注目されており、そのブラッグピークを持つ特徴的な線量分布から、病巣だけに高線量を集中させることができ、患者様により良い治療法を提供することができます。日本の陽子線治療稼働施設の数が世界で第2位だということを聞いて、大変驚きました。現在、日本国内の死亡率第1位はがんであり、死亡者数も増加の一途を辿っている中で、低侵襲的な放射線治療稼働施設が増えることは良い傾向だと思います。スライドでは、巨大な加速器の写真や実際の照射室の映像も載せられていて、大変分かりやすかったです。

また、治療とは内容が異なってしまいましたが、私は放射線技師でありながら「放射線ホルミシス」という言葉をこの講習会に出て初めて知りました。放射線ホルミシスとは、本来であれば人体に有害なものが、微量であれば逆に良い作用を示す生理的刺激作用のことで、過去の実験から、低線量の放射線を照射すると腫瘍の増殖肥大を抑制できたり、5年生存率の改善などが期待できるそうです。生物の体は良くできていると、改めて感心させられました。

そして、どんな治療や検査も全て患者様のために行うものであり、接し方一つで患者様の気分や病院に対する印象をも左右するものです。今回の講習会では、実際に起きた核医学のヒヤリハットやインシデント、放射線治療を受ける患者様の看護について学びました。核医学においては、事例のほとんどが注射時によるミスであり、CT、MRIなどの造影剤を使う検査でも同様に、医師や看護師との相互確認や患者様の様子を常に観察する大切さを改めて実感しました。治療においても、患者様の不安を取り除くという意味では検査でも同様であるので、常に親身になって対応したいと思います。

今回の講習会を受けて、自分の知識や接遇の仕方を振り返る、良い機会となりました。今後とも放射線技師としてより良い医療の提供に励み、精進していきたいと思っています。



会場の様子